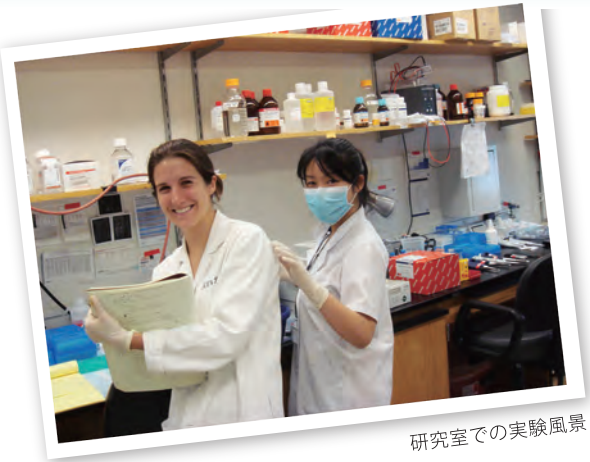
ここがよかった！ GCOE



研究室での実験風景

指導教官であるDr. Vacantiと

Photo by First Daffodils. CC BY SA

ハーバード大学

ハーバード留学体験記

小保方晴子

先進理工学研究科 生命医科学専攻
博士課程3年　常田研究室

私は博士課程の1年の夏から2年の冬までの間、アメリカのボストンにあるハーバード大学医学部に留学させていただきました。たった1年と数ヵ月の留学でしたが、人生何年分にもあたる刺激的な出会いの連続でした。

指導教官のDr. Vacantiは再生医療や組織工学研究のパイオニアで、愛とユーモアにあふれた方です。研究室には、同じ年頃の女の子が私を含め4人在籍していて、Dr. Vacanti's angelsと呼ばれて（名乗って）いました。文化も言葉も夢も人種も異なる4人でしたが、研究室での生活はもちろん、カフェで夜中まで勉強したり、デートの前日に服を買いに行ったり、将来について語りあったり、いつもいっしょでした。おかげで、今では大親友です。おしゃべりで早口な女の子に囲まれ、私は英語のスパルタ教育を受けました。

世界最先端の研究が毎日発表されるハーバード大学の研究棟には世界中から研究者が集い、研究棟を歩くのはさながら小さな世界旅行のようでした。私は自分が所属するラボ以外にも、2つのラボのミーティングに毎週参加していました。そこでの発表は聞いて理解するものではなく、自ら考えて意見を述べるもので、眠気を感じる暇などまったくありません。また、昼になるとハーバード中あらゆる場所でセミナーが行われるので、広い構内を走りまわって参加しました。著名な研究者のセミナーを毎日のように聞けたことはハーバードならではの貴重な体験です。ハーバードの医学部はマサチューセッツ工科大学（MIT）と提携しており、私もMITの学生たちといっしょに授業を受けました。そこでの学生の質問の活発さにも、その質問に対し、教科書的に答えるのではなく最新の知見や自身の研究データを基に真摯に自分の意見を述べる教授陣の姿にも感動し、気がつけば毎回自分も質問するようになっていました。

Dr. Vacantiはたくさんの助言をくださいました。最も印象的だったのは、「皆が憧れる、あらゆる面で成功した人生を送りなさい。すべてを手に入れて幸せになりなさい」と言われたことです。この言葉は、「見本となるような人生を送りなさい」という、すべての若者に向けた言葉だと理解しています。本留学では、日本とアメリカの違いを感じるよりも、世界的に認められ人々を牽引する力をもつ人に共通する普遍的なものを再確認する機会のほうが多かったと思います。私も自分がすべき社会貢献を実現する中で、このような貴重な体験を世界に還元していきたいという大きな野望を胸に秘めています。

小保方晴子；2006年早稲田大学理工学部応用化学科卒業、2008年早稲田大学理工学研究科応用化学専攻修士課程を経て2008年より日本学術振興会特別研究員、博士課程1年から2年にかけてハーバード大学医学部に留学。現在、生命医科学専攻博士課程3年。常田研究室と東京女子医科大学、ハーバード大学との共同研究で再生医療実現化に向けた新規組織工学手法の開発や幹細胞研究を行っている。

本編はwebで読むことができます。
http://pcw-gcoe-waseda.jp/jpn/phd/voice.html